

科目・コース（ユニット）名：生態・医療人類学
英語名称：Ecological and Medical Anthropology

【担当責任者】立柳 聡（非常勤講師）

【連絡先】tachiyan@fmu.ac.jp

【開講年次】1 年，【学期】前期【必修／選択】選択必修

【授業形態】講義／演習

【概要】

広くは、環境と人間・社会と文化の形成の相関について検討します。どのような生態的条件がどんな社会や文化を生み出してきたか、その背景を含めて検討します。また、逆に、人間は自分を取り巻く環境をどのように認識し、意味づけていくのか、などに主要な関心を寄せ、文化人類学、社会学の基本的な知見とこれまでの研究成果によりながら、検討してみたいと思います。

また、人間たちが種々の欲求や思いを背景に生み出す社会現象の本質は、公式のように表現することは困難です。それを扱う社会科学の醍醐味は、何らかの社会現象をめぐる多様な見方や解釈の可能性を示し、それを裏付ける主張の合理性や特色を検討することです。こうした主要な関心に対する理解を深めたり、社会科学の醍醐味を実感していただけるように；

- ① 毎回の授業のトピックスを講じます。
- ② 折々に次の学びのステップになりそうな参考文献をご紹介します。
- ③ 授業ごとにフィードバックペーパーをまとめていただき、必要に応じたりプライを行います。
- ④ グループワークによるレポート作成に取り組んでいただきます。

2017年に改訂された「医学教育モデル・コアカリキュラム」で、日本の医学教育史上初めて文化人類学および社会学も内容が導入されましたが、この背景には、少子化や高齢化、慢性疾患の増加など、医師が直面する課題に、患者の生命のみならず、「生活」や「人生」、「文化」や「社会」に関する事柄が多々含まれるようになってきた事情があります。正に文化人類学や社会学など、社会科学の知見が医療の場において積極的に求められる状況になったと言えるでしょう。そして、医師となる皆さんもまた、やがて臨床の場でそうした事例に間々出会うことになると思われます。その時、社会科学の知見を活かしてどう考えていくか、そのための基礎的なトレーニングになることを目指して授業を展開して参ります。

【学習目標】

- (1) 「文化」、「社会」、「民族」、「環境」など、文化人類学、社会学の基本概念を理解できる。
- (2) 多様な文化・社会の存在と特色を理解し、尊重できる。

- (3) 人類は、諸現象のからくりを自然科学によって合理的に把握しようとする一方、観念の操作で“意味づける”ことができる生き物であることが理解できる。
- (4) 例えば、「病気」や「健康」、「障害」にも“意味づけ”が伴う場合があることを理解できる。
- (5) 自分が文化として身につけた価値観やものごとの見方を相対化して捉えることができる。
- (6) それぞれの人間の個性や価値観、見方、解釈の多様性を受け容れることができる。
- (7) 日本文化において、医師がどのような存在として捉えられているか理解できる。それを踏まえ、庶民から信頼される医師として相応しいプロフェッショナルな態度や行動をとることができる。

【教科書】

佐藤洋一郎（著）、『食の人類史』、中公新書

【参考書】

授業の進行に合わせ、自修によって、さらに学びを深めていただけるように、適当と見られる参考文献等をご紹介します。本講座では、事後学習に重きがあるとうご理解ください。その上で、医療人類学、生態人類学の世界の概要を知る手がかりを得たい方には、以下の文献をご紹介します。

澤野美智子（編著）、『医療人類学を学ぶための60冊 医療を通して「当たり前」を問い直そう』、明石書店

【成績評価方法】

1. 本講座の主題に対する理解を把握する目的で、医療と環境、文化・社会の相関を検討する上で適当とみられる課題をめぐるグループによるレポート作成の成果を主体に、出席状況やフィードバックペーパーの内容なども踏まえ、総合的に評価します。なお、レポートの作成方法、提出方法、評価の観点などの細部は、追って、課題提示の折に改めてお知らせしますが、執筆分量や課題として問われたことが考察されているか、特にこだわって精査すると共に、他のグループのレポートの出来栄とも相対的な比較を試みつつ、4段階程度の分類で評価いたします。なお、レポートの再提出の機会は設けません。
2. 出席を含め、福島県立医科大学医学部履修規定を遵守して判断します。出席については、規定に基づき、原則として講義（あるいは演習）は2/3以上の出席を要します。
3. 細部は履修者が確定した後、改めて検討して周知します。

【学習上の注意事項】

授業時間や回数が限られているため、初回から一定の授業を行います。

講演会、見学先、フィールドワークなど、学外での学びの機会についても折々にご紹介するよう心がけます。

選択科目のため、どのような顔ぶれがどれだけ履修されるのか、開講してみないとわかりません。その上で、

- ① 授業時間が限られており、基本は講義主体の展開となります。
- ② 毎回、皆さんからのご質問に最大限にお答えしたいので、そのための時間が割り込んできます。このため、少しずつ進行にズレが生じることが予想されますので、ご了承ください。調整困難な場合には、14回目と15回目の内容を精選するか（一部）割愛する方法で対応いたします。

【授業スケジュール】

回数	年/月/日	曜日	時限	内 容	担当教員名
1	2026/4/15	水	3	(講) 社会科学の特色、授業方針等	立柳 聡
2	2026/4/22	水	3	(講) 文化人類学の特色と基本概念の紹介	立柳 聡
3	2026/5/13	水	3	(講) 言語相対説	立柳 聡
4	2026/5/20	水	3	(講) 前回の続き	立柳 聡
5	2026/5/27	水	3	(講) 文化人類学の環境論	立柳 聡
6	2026/6/3	水	3	(講) 社会的環境論、文化の選択性	立柳 聡
7	2026/6/10	水	2	(講) 採集狩猟民の社会と文化の特色	立柳 聡
8	2026/6/10	水	3	(講) 農耕の本質、食料生産革命	立柳 聡
9	2026/6/17	水	2	(講) 農耕民の社会の特色	立柳 聡
10	2026/6/17	水	3	(講) 農耕民の文化の特色	立柳 聡
11	2026/6/24	水	2	(講) 日本人の生命観	立柳 聡
12	2026/6/24	水	3	(講) 前回の続き	立柳 聡
13	2026/7/1	水	3	(講) 病気と病、障害の本質	立柳 聡
14	2026/7/8	水	3	(講) 人類の思考と認識の特色をめぐる諸学説、レポートの課題と作成要領	立柳 聡
15	2026/7/15	水	3	(講) 前回の続き	立柳 聡

【担当教員】

教員氏名	職	所属
立柳 聡	博士研究員	総合科学教育研究センター